

令和 7 年度 事業計画書

社会福祉法人天宗社会福祉事業会
理事長 土井 加津人

令和 7 年度における当法人・各施設の事業計画概要は次のとおりです。

1、 全体概要

初代理事長土井鶴之助氏が法人を設立して 65 年が経過しました。保育所不足時代に長吉の地に定員 60 名の保育所を開園し、現在は保育所 6 カ所（内 1 カ所は大阪市委託保育所）と老人デイサービスセンター 2 カ所の経営を行っている。新型コロナウイルスを含むウイルスの感染防止に対応した事業実施を検討する。

出生数の減少による少子化傾向に加え新型コロナウイルス感染は減少したがインフルエンザやウイルス性腸炎等が流行し、その対応に苦慮する。コロナ対策補助金返済倒産や光熱水費や物価の高騰も続き、親の離職者も増え、園児数の減少も止まらない。平野・東住吉区では待機児童も無く、園児数の確定も遅くなり保育士数の不足や過剰が出来る。保育士の定着を期すため給料 UP の処遇改善手当の増額を望む。しかし永年地元の保育所として運営してきたノウハウを生かし、子どもの最善の利益を保証し、将来国家を支える有用な人材となるように、職員一同一丸となり、さらに保育に専念する所存であります。

このように今後も法人・施設運営の厳しさが増す傾向にあるが、各施設独自に工夫し、資金面においても赤字が出ないように努力していきたい。又、収益事業部門では、保育用品販売の収入も減少傾向になる。旧福祉専門学校建物の有効活用としてクリニックに貸与し賃貸料を収益に計上している。

2、施設概要

〔保育所運営概要〕

- ① 今年度は、東住吉園で定員の変更をするが、今後他園も園児数に見合った定員変更も考慮する（保育単価の変更が可能な場合）。又、保育所運営規程と保護者説明の保育所重要事項説明書の作成も、毎年、多少の変更が生じている。

保育園児数が全体で昨年より 9 名減少した。尚、各園利用定員に余裕があるため途中入園を積極的に受け入れていく方針だが保育士の人数により、困難な場合が出てくる。家庭で保育されている子どもが親子一緒に来園し楽しく過ごす子育て支援も感染症の影響を考慮しながらも申し込みがあれば実施の計画をする。

建替え済みの天宗瓜破東園を除く各園も設立より年数が経過し、建物維持のため園舎の耐震化、補修工事が必要となっているため、各園の経営努力により自己資金の積み上げを期待する。天宗清見台園は園児数の減少が激しく、長年赤字経営であり、法人からの借入返金も困難となっており、存続有無を検討する。

- ② 処遇改善Ⅱ（キャリアアップ）の補助金確保のため、各園、保育士の研修機会を出来るだけ増やし、キャリアアップの単位を取得する。又、相互に保育内容の向上に努めるとともに、各施設の地域性も重視し、各園独自のアイデアによる保育を実施し、地域に密着した保育に取り組む。オンラインによる研修も増えているので、その充実を図る。
- ③ 各園共保育の向上を目指し、外部講師による特別保育指導を保育士も学びながら充実

した保育の指導が出来るように引き続き実施する。

- ④「食育」の観点から給食材料の安全性、給食献立も工夫し、食物アレルギーの園児にも対応したものとなっている。
- ④ 地域の子育て支援や小学校との交流もウイルス感染状況を把握しながら検討していく。
- ⑥保育園児の安全を図るため、門扉のオートロック化を図り不審者の進入を防ぐとともに、遊具の安全点検を随時実施し、園内外での子どもの安全教育を強力に図る。
夜間は警備会社の機械警備を実施し施設・設備の安全を図る。
- ⑦各園、ICT化〔業務省力化〕の設備を整備し、園児の登・降園時間のチェック、職員の出・退勤管理に利用している。今後、保育文書の作成等に活用し、保育士の業務省力化に利用する。

○ 天宗瓜破園

瓜破園の南に位置する大阪市営住宅の取壊の後、更地となったままで、利用されていない。又北側の公営住宅団地も老朽化による撤去のため、戸数も減少している。年々園児数も減少傾向にあり、昨年度より6名減少したが、保育単価変更基準以上のため定員変更はしなかった。保育事業では、乳児保育・特別支援保育・延長保育等を引き続き行う。又てんそう苑や平野地域デイの老人と園児の交流会や子育て支援としての毎月1回子育て支援・園庭開放を実施する。又大学等の保育実習や中学生の職業体験は例年通り受け入れる。毎年、各種の児童絵画展に出品し、好評を得ているので、引き続き出品し、職員・園児の励みとする。

毎日新鮮な果物を給食に提供するため、引き続き、和歌山の農協に月1回、購入に行く。

この地区は水害対策地区に指定されているので、火災避難訓練と共に地震や津波の防災訓練又不審者対応の訓練も行い安全性を強化する。それに対するマニュアルも整備する。職員の健康診断、健康管理、ストレスチェックについて、どい総合クリニックの産業医と対応していく。

○ 天宗瓜破東園

「伸び伸びと元気に育つ子」「何事にも思いやりや優しさの持てる子」「工夫して遊ぶ力を持つ子」の3つの理念に沿って、職員全員が共通理解のもと保育を進めていく。

小学校との連携を深めるため、意見交換会や小学生と園児の交流会、災害時を想定した瓜東小学校への避難訓練を計画し、実行していく。

ICTシステム「ルクミー」を活用し、「ヒトコマ」(写真に子どもの気づきや成長を文章で記録する機能)を日誌として活用することで業務負担を軽減する。

学年、複数担任クラスで週1回クラスミーティングを行い、写真を使って保育の振り返りを行うことで保育士間の連携を強化する。

保護者へ保育の内容を深く知ってもらうため、ドキュメンテーションを作成して園内に掲示することで、子どもの成長を共有する。

乳児保育、延長保育、特別支援保育を継続して行う。

未就園児の親子を対象に園庭開放や育児相談を行う。

菜園で収穫した野菜を使ってクッキングを行い、食育指導を行う。

ホームページやSNS(Instagram)を活用して園情報を発信する。

職員の保育の質向上を目的とした園内研修を2ヶ月に1度行う。

特別支援児の事例検討会を毎月行う。

副主任、専門リーダーを中心にキャリアアップ研修に参加する。

○ 天宗長吉園

少子化と1歳児クラス担当5：1に対応するため、認可定員・利用定員の減少を行い、職員の処遇改善、特に乳児保育の処遇を向上させる。「たくましく生きる力をはぐくむ」を保育理念とし、子どもの基本的な生活習慣を育てると同時に、自分の力で切り開いていける能力を培っていけるよう、当園では子ども達が自由に発想し、挑戦出来る環境を整えていく。職員も多種の研修を受講できるようにし（Web研修含む）、キャリアアップにつなげていく。保育事業として、乳児保育・延長保育・特別支援保育を行う。子育て支援の一環として、園庭開放、保育園体験、育児相談を実施する。中学校、高校の職場体験、保育学科の実習やボランティア、アルバイトなども受け入れたくさんの経験を積んでもらえるようにしていく。

園での活動は、ホームページのブログなどで、普段の様子を閲覧できるようにしている。

○天宗東住吉園

地域との繋がりを大切にした保育を心掛けており、特に昨年度は小学校の就学前学習も盛んに行われ、今年度も引き続き実施してもらえよう小学校と連携を図りながら行っていきたい。

また、季節の野菜を育て収穫し給食にて提供することにより、食を通じ感謝の気持ちを育んでいきたい。乳児保育・特別支援保育・延長保育を実施し対象者のニーズに応えていくと共に、東住吉地域子育て支援センター園として未就園児の親子を受け入れ育児相談、園庭開放等の子育て支援を行う。尚、例年通り東住吉区内保育園の事業活動にも助力していく。

地域中学校の体験学習や各専門学校・短期大学の実習生の受け入れは従来通り行い、将来を担う子どもたちの道標となるよう努める。

尚、当園と保護者の総合連絡アプリ「きっずノート」の活用により、保護者の連絡（緊急も含め）や、職員間の連絡等を今年度も同様に実施予定である。

○天宗清見台園

乳児産休明け保育・一時保育（自主事業）・特別支援保育・延長保育（午前7時～午後7時）等を行う。縦割り保育の中で、協調性や思いやりの心を育む。又、特別保育として、和太鼓、茶道・華道・書道教室、英話・スペイン語遊び、リトミック、ソロバン教室等を希望者対象に無料で実施する。

地域のお年寄りや未就園児童を園行事に積極的に招き、在園児との交流を深めると共に、緊急入所児童の受け入れや育児相談を行い、子育てへの支援に努める。感染症対策の徹底を図る。

管理栄養士による独自の献立と地産地消・国産の食材を使用し、食育の推進を図る。

河内長野市保・幼・小連絡会に参画し、交流会や研修会を通じて連携を深める。

川上地区まちづくり協議会の交流活動である芋掘りを園児たちに体験させる。

地域の小学校との連携を図りながら、学校見学会、生徒との交流を通じて就学への援助を図る。

地域の中学校からの職場体験、大学等からの保育実習の受け入れを行う。

園児の減少による定員変更や支出の見直しを図り、本部よりの借入金の縮小を図りたい。

○ 大阪市内立矢田第三保育所

大阪市より運営委託を受けて、14年を迎えた。乳児保育・延長保育・特別支援保育・子育て相談を行う。地域交流の一貫として小学校区教育協議会による会議や新聞発行等で連携を深めて行く。小中学校の職業体験、実習生の受け入れ等を行う。就学先の学校や、近隣施設との活動に参加し、交流を深める。

保育は「全体的な計画」を基に、食育は「食育年間計画」を基に、所児や保護者に寄り添いながら、一人ひとりを大切にし、安定した保育の提供と子育て支援を行って行く。

令和7年度より、「うえぶさくら」のアプリを活用予定。

2月下旬に大阪市による所舎の外壁、防水等の改修工事は終えたが、ブロック塀から、フェンスへの取替工事は今年度9月～2月にかけて行われる予定。

工事の工程等、大阪市と詳細に話し合い、安全を第一に、子ども達への保育の提供が損なわれることの無い様、行事等進めて行きたい。

[老人通所施設運営概要]

- ① 老人地域在宅ステーションが単独施設運営のため、融通性が無く、余裕のある経営とはなっていないが、種々のサービスメニューを検討し、収入の安定を図りたい。
- ② 老人人口の増加を見込み同種の施設が株式会社やNPO法人等で又介護付き有料老人ホーム等民間業者で増加しているが、サービスの向上で利用者増に結び付けたい。

○ 瓜破西地域在宅サービスステーション「てんそう苑」

開設して27年経過し設備が古くなりつつあり計画的な設備更新を行い、積み立てを行っていききたい。デイサービスについては利用者数の減少により収益が低下しており自立支援・重度化防止に向けて科学的介護の実践の推進、選ばれるサービスの創出に努め業績の改善を目指していく。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどにより急な利用者の欠席や職員の休みが入り安定的な運営が出来なくなるため感染症予防対策を継続する。また災害対策の取り組みを立案し研修を実施するとともに、地域住民と連携を図る。意欲向上の取り組みの実施、日常生活機能の向上をめざし、口腔機能向上、低栄養対策を含めた総合的な生活機能向上プログラムを充実していく。SNSの活用やパンフレットを作成しケアマネージャーに広く周知し新規利用者の増加を図りたい。訪問介護については、人材を募集しても集まらず、ヘルパーの高年齢化が問題となっている。求人活動に力を入れていくとともに業務の効率化を目指していく。特定事業所加算を算定し在籍しているヘルパーについて、研修を通じて質の向上を図ると共にキャリアアップ出来るようにしていく。

- 居宅介護支援については特定事業所加算を継続し、地域包括ケア推進に向けての取組や医療連携の推進、地域のネットワーク作りの参画、個々の質の向上を図るとともに基準の順守に努めていく。

- ブランチ（介護支援センター）では地域包括支援センターと連携し、見守り訪問を積極的に行っていき実態把握及び総合相談を行う。又、地域住民向けの広報や講演会を行い、周知につなげていく。

○ 平野在宅サービスステーション

開設して21年となる。感染対策の観点より安心安全にサービス利用が出来るよう努める。又、閉じこもり予防や身体機能の向上を図り在宅生活に必要な支援を行う。

常勤の理学療法士により利用者の身体機能の回復や生活機能向上及びその人らしい生活の実現を目指す。事業所においては適正なサービス提供が出来るように人員確保に努め、研修会等定期的に開催し、質の向上を図りより良いサービス提供を実施すること。利用者個別のニーズに応じた柔軟な受け入れを行い利用者増員に結び付けたい。訪問介護は必要に応じ日曜日・祝日の提供を実施とする。又、多様なニーズに対応出来るようヘルパーの研修会等を定期的に開催し質の向上を図る。

○居宅介護支援事業においては、主任介護支援専門員を配置し、地域の相談や介護支援専門員の後方支援を図れるよう努める

○ランチ(介護支援センター)では地域の相談窓口として各種相談に応じる。又、地域ネットワークの構築、権利擁護、高齢者虐待等の相談に応じ、適宜、関係機関と連携する。

3、年間基本保育日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
保育日数	25	24	25	26	25	24	26	23	24	23	23	26	294
日、祝、休業	5	7	5	5	6	6	5	7	7	8	5	5	71
合計	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365

園により臨時休園・臨時開園をとる場合があります。

4、保育児童数（令和7年4月1日予定）全園児数（令和7年3月1日現在）

保育所名		瓜破園 -6		瓜破東 -6		長吉園 +3		東住吉園-8		清見台園+4		矢田第三+4	
		標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間
児童数内訳	差数 -9	140	36	190	31	175	40	96	36	32	0	75	14
	0歳児 -10	3	3	9	0	9	0	6	0	1	0	3	3
	1歳児 +2	24	6	32	3	26	4	20	0	7	0	9	3
	2歳児 +18	28	8	39	2	37	5	15	9	7	0	12	4
	3歳児 -5	24	7	43	7	31	10	17	10	43	0	18	0
	4歳児 -14	33	3	28	12	36	10	19	6	75	0	14	3
	5歳児 0	28	9	39	7	36	11	19	11	9	0	19	1
特別支援児保育		内数 1 名-2		5 名 +1		6 名 -1		5 名 -4		3		4 名 +1	
東住吉園		子育て支援職員 常勤 1 名 パート 2 名											

5、老人関係

瓜破西地域在宅サービスステーション てんそう苑

デイサービスセンター 定員30名 職員 常勤 5名 パート 10名

訪問介護 年間3000回 職員 常勤 2名 登録ヘルパー 9名

居宅介護年間280回（職員は訪問介護と兼務） 職員 常勤 2名 登録ヘルパー 9名

居宅介護支援 年間1200回 職員 常勤 3名（主任介護支援専門員2名・介護支援専門員1名）

在宅介護支援センター ブランチ 職員 常勤 1名（社会福祉士）（専任）

平野地域在宅サービスステーション

デイサービスセンター 定員 25 名 職員 常勤 4 名 パート 10 名

訪問介護 年間 960 回 職員 常勤 2 名 登録ヘルパー 2 名

居宅介護支援 年間 780 回 職員 常勤 1 名（専任）、兼任 1 名（主任介護支援専門員）

在宅介護支援センター ブランチ 職員 常勤 1 名（社会福祉士）（専任）
兼任 1 名（主任介護支援専門員）
